

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 21No. 4; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009184

1996—21_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告

●
カナダ・イヌイットの社会・経済変化

——ケベック州のイヌクジュアク村の事例を中心に—— 岸上伸啓

韓国社会における旅芸人の受け入れられ方—— 朴 銓烈

ポストモダン人類学の代価

——ブリコロールの戦術と生活の場の人類学—— 小田 亮

記録されなかった出生

——人口人類学におけるシミュレーション研究—— 木下太志

Effects of Nostalgia : The Discourse of Decline in *Periya Mēlam*
Music of South India—— Yoshitaka Terada



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

21 卷 4 号

1996 年

目 次

カナダ・イヌイットの社会・経済変化 ——ケベック州のイヌクジュアク村の事例を中心に——	岸上伸啓	715
韓国社会における旅芸人の受け入れられ方	朴 鎔烈	777
ポストモダン人類学の代価 ——ブリコロールの戦術と生活の場の人類学——	小田 亮	807
記録されなかった出生 ——人口人類学におけるシミュレーション研究——	木下太志	877
Effects of Nostalgia: The Discourse of Decline in <i>Periya Mēlam</i> Music of South India	Yoshitaka Terada	921
彙 報		941
国立民族学博物館研究報告 21 卷 総目次		952
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		953
国立民族学博物館研究報告執筆要領		954

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 21 No. 4

1996

KISHIGAMI, Nobuhiro	Socio-Economic Change in Canadian Inuit Society: The Case of Inukjuak Village, Nunavik (Northern Quebec), Canada 715
PARK, Jeon Yull	The Social Acceptability of Strolling Players in Korea 777
ODA, Makoto	The Price of Postmodern Anthropology 807
KINOSHITA, Futoshi	Uncounted Births: Estimating the Fertility of Tokugawa Peasants from Shumon Aratame-cho..... 877
TERADA, Yoshitaka	Effects of Nostalgia: The Discourse of Decline in <i>Periya Mēlam</i> Music of South India..... 921

彙報 (平成8年10月～平成8年12月)

人事異動 (教育職)

(任期满了)

12月15日 第五研究部教授 BECKWITH, Christopher (インディアナ大学中央ユーラシア学部教授) <任期 8. 5.16～8.12.15>

シンポジウム

◎国際研究集会

「中華民族多元一体論と中国における民族間関係」

期間 平成8年10月11日(金)～10月12日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、費孝通教授の民族理論を手がかりとしながら、中日両国の第一線の研究者の参加のもとに、中国における民族間関係について総合的な理解を得ることを目的として活発な討論が行われました。

国際研究集会委員会

研究代表者

佐々木高明 国立民族学博物館長

実行委員長

塚田 誠之 国立民族学博物館第二研究部

実行委員

横山 廣子 国立民族学博物館第二研究部

野林 厚志 国立民族学博物館第三研究部

参加者

陳 連 開 中国中央民族大学歴史系

長谷川 清 聖徳学園岐阜教育大学外国語学部

馬 戎 中国北京大学社会学人類学研究所

瀬川 昌久 東北大学東北アジア研究センター

塚田 誠之 国立民族学博物館

横山 廣子 国立民族学博物館

周 星 中国北京大学社会学人類学研究所

総合コメンテーター

濱島 敦俊 大阪大学文学部

毛里 和子 横浜市立大学国際文化学部

中根 千枝 日本民族学振興会

討論参加者

藤井 知昭 中部高等学術研究所

胡 起 望 聖徳学園岐阜教育大学外国語学部

片山 剛 大阪大学文学部

小長谷有紀 国立民族学博物館

野林 厚志 国立民族学博物館

松原 正毅 国立民族学博物館

松澤 員子 神戸女学院大学人間科学部

佐々木高明 国立民族学博物館

田村 克己 国立民族学博物館

張 栄 華 中国全国人民代表大会常務委員会弁公庁

日程

10月11日(金)

9:45 参加者登録

10:00 開会式

10:30 あいさつ 佐々木高明 (座長:横山 廣子)

問題提起 塚田 誠之

11:00 報告 (座長:横山 廣子)

中華民族の構造を論ず

陳 連 開

コメント 塚田 誠之

13:30 報告 (座長:塚田 誠之)

元江地方の初歩的な発展と民族間関係 周 星

コメント 横山 廣子

14:40 報告 (座長:長谷川 清)

「屯軍の末裔」たち一貴州における民族間関係と民族の生成一

塚田 誠之

- コメント 小長谷有紀
- 15:50 報告 (座長:長谷川 清)
雲南における白族と漢族の関係—
民族的アイデンティティの変化に
関する考察— 横山 廣子
コメント 片山 剛
- 10月12日(土)
- 10:00 報告 (座長:小長谷有紀)
民族間関係と「歴史」の記憶—徳
宏タイ族のエスニシティと民族的
境界をめぐる— 長谷川 清
コメント 胡 起 望
- 11:10 報告 (座長:小長谷有紀)
漢族の民係とその境界について—
客家の事例を中心に— 瀬川 昌久
コメント 田村 克己
- 13:40 報告 (座長:塚田 誠之)
ラサ市区の居住格局及び漢族とチ
ベット族の関係 馬 戎
コメント 中根 千枝
- 14:50 総括討論(座長:田村 克己)
総合コメント 中根 千枝
濱島 敦俊
毛里 和子

◎特別研究「アジア・太平洋地域における民
族文化の比較研究—第8回シンポジウム—
土地所有の政治史」
日時 平成8年10月28日(月)
~10月31日(木)

場所 国立民族学博物館
摘要 今回のシンポジウムは、アジア太平
洋地域における土地所有とその背景
にある政治的状況を歴史的過程のな
かでとらえることを目的として、人
類学、歴史学、法学といったさまざ
まな観点から土地所有について、活
発な討論が行われました。

実行委員会
委員長

杉島 敬志 国立民族学博物館第二研究
部

- 事務局長
江口 一久 国立民族学博物館第三研究
部
- 委員
上杉 富之 国立民族学博物館第二研究
部
笹原 亮二 国立民族学博物館第一研究
部
清水 昭俊 国立民族学博物館第四研究
部
杉本 良男 国立民族学博物館第三研究
部
寺田 吉孝 国立民族学博物館第二研究
部
林 勲男 国立民族学博物館第四研究
部
南 真木人 国立民族学博物館第三研究
部
- 事務局
浦野 民子 国立民族学博物館管理部研
究協力課国際協力係
下浦 摩紀 『アジア・太平洋』事務局
- 報告者
春日 直樹 大阪大学人間科学部
杉島 敬志 国立民族学博物館
杉本 星子 総合研究大学院大学文化科
学研究科
須藤 健一 神戸大学国際文化学部
関根 久雄 名古屋大学大学院国際開発
研究科
棚橋 訓 慶応義塾大学文学部
田辺 明生 東京外国語大学アジア・ア
フリカ言語文化研究所
樋谷 智子 東京大学大学院総合文化研
究科
中村 潔 新潟大学人文学部
馬場 雄司 同朋大学社会福祉学部
林 勲男 国立民族学博物館
速水 洋子 京都大学東南アジア研究セ
ンター
深澤 秀夫 東京外国語大学アジア・ア
フリカ言語文化研究所

森山 工 広島市立大学国際学部
 討論者
 加納 啓良 東京大学東洋文化研究所
 栗本 英世 国立民族学博物館
 崎山 理 国立民族学博物館
 佐々木高明 国立民族学博物館
 清水 昭俊 国立民族学博物館
 水島 司 東京外国語大学アジア・ア
 フリカ言語文化研究所
 安田 信之 名古屋大学大学院国際開発
 研究科

日程

10月28日(月)

10:30 参加者登録
 10:45 開会式
 館長挨拶 佐々木高明
 運営委員長挨拶 崎山 理
 11:00 問題提起
 (座長:清水 昭俊)
 インドネシアにおける土地政策と
 リオ人の土地権 杉島 敬志
 13:30 (座長:春日 直樹)
 バリにおける伝統的土地権と近代
 化 中村 潔
 15:15 「系譜の一貫性と正確さ」の誤り—
 パプアニューギニアにおける開発
 と慣習的土地所有の問題—
 林 勲男

10月29日(火)

(座長:栗本 英世)
 9:30 パプアニューギニアの石油開発と
 土地所有権—フォイ族の神話・ク
 ランの生成と変遷— 樋谷 智子
 11:10 ソロモン諸島の土地と開発
 関根 久雄
 (座長:中村 潔)
 13:30 土地・移民・ホームランド—ポリ
 ネシア・クック諸島における土地
 の読み方の現在 棚橋 訓
 15:15 土地はなぜ執着を生むか—フィ
 ジーの歴史と現実をつうじて考え
 る— 春日 直樹

10月30日(水)

(座長:深澤 秀夫)
 9:30 人と政治を動かすヤップ社会の土
 地制度 須藤 健一
 11:10 国王の領土におけるカレン族の土
 地権 速水 洋子
 (座長:須藤 健一)
 13:30 北タイ、タイ・ルールの移住と精霊
 祭祀—「領域」支配と土地所有を
 めぐって— 馬場 雄司
 15:15 南インド・タミルナードゥ州にお
 けるヒンドゥー寺院と土地の権益
 杉本 星子

10月31日(木)

(座長:速水 洋子)
 9:30 土地とアイデンティティ—インド
 ・オリッサ州クルダ地域における土
 地の文化政治史— 田辺 明生
 11:10 イメリナの歴史空間における土地
 と土地を持たざる者をめぐる言説
 の変遷 深澤 秀夫
 (座長:棚橋 訓)
 13:30 不可視の土地—マダガスカル、シ
 ハナカにおける空間概念と歴史意
 識— 森山 工
 15:15 総括討論 (座長:杉島 敬志)

◎特別研究「二〇世紀における諸民族文化の
 伝統と変容」シンポジウムⅤ「共同体の二
 〇世紀」

期間 平成8年11月7日(木)

～11月9日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、共同体にとって二〇世紀と
 はいかなる時代であったか、さらに
 二一世紀には共同体はどうなってい
 くのかという、共同体の推移とゆく
 えをめぐって活発な討論が行われま
 した。

シンポジウム委員会

実行委員長

中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究

部
 実行委員
 久保 正敏 国立民族学博物館第五研究部
 笹原 亮二 国立民族学博物館第一研究部
 福岡 正太 国立民族学博物館第二研究部

事務局
 浦野 民子 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係
 今田 好子 「二〇世紀」事務局

報告者
 グスタボ・アンドラーデ 上智大学
 宇田川妙子 中部大学
 大塚 和夫 東京都立大学
 栗本 英世 国立民族学博物館
 スコット・シュネル アイオワ大学
 新免光比呂 国立民族学博物館
 鈴木 紀 千葉大学
 高田 公理 武庫川女子大学
 武藤 佳恭 慶應義塾大学
 中谷 文美 岡山大学
 中牧 弘允 国立民族学博物館
 轟 莉 莉 西南学院大学
 野田 正彰 京都造形芸術大学
 日置弘一郎 京都大学
 スチュアート ヘンリ 昭和女子大学

討論参加者
 石毛 直道 国立民族学博物館
 高 恵 星 East Rock Institute
 近藤 雅樹 国立民族学博物館
 佐々木史郎 国立民族学博物館
 庄司 博史 国立民族学博物館
 杉本 良男 国立民族学博物館
 田村 克己 国立民族学博物館
 端 信行 国立民族学博物館
 色 音 中国社会科学院

日程

11月7日(木)
 10:00 受付
 10:30 あいさつ 佐々木高明
 (司会:端 信行)
 問題提起 中牧 弘允
 13:00 宗教共同体 (司会:杉本 良男)
 ラテンアメリカにおける共同体の新しいモデル
 グスタボ・アンドラーデ
 13:30 ウンマ・ネーション・イスラーム主義集団—ムスリム「共同体」の20世紀 大塚 和夫
 14:00 討論
 15:15 社会主義体制のなかの共同体 (司会:庄司 博史)
 東欧の農村共同体の20世紀—ルーマニアの事例から— 新免光比呂
 15:45 「礼俗」社会から「組織」社会, そしてポスト「組織」社会へ—中国における「共同体」— 轟 莉 莉
 16:15 討論
 11月8日(金)
 10:00 国民国家体制のなかの共同体 (司会:佐々木史郎)
 共同体としての先住民—カナダ・イヌイットにみる新しい共同体の生成— スチュアート ヘンリ
 10:30 「共同体」の周辺化, 衰退と創造—北東アフリカの事例から— 栗本 英世
 11:00 討論
 13:00 (司会:田村 克己)
 被開発の20世紀—中米マヤ地域の先住民共同体の変容— 鈴木 紀
 13:30 共同体としての国家と国家のなかの共同体—インドネシアの事例から— 中谷 文美
 14:00 討論
 15:15 (司会:近藤 雅樹)
 共同体のアイデンティティの形成・維持に不可欠な要素としての対立
 スコット・シュネル

彙報

- 15:45 社縁共同体の現在 日置弘一郎
16:15 討論
11月9日(土)
10:00 大衆化のなかの共同体
(司会:石毛 直道)
イタリアにおける様々な共同体意識 宇田川妙子
10:30 大衆社会化のなかの共同体—日本とアメリカ— 高田 公理
11:00 討論
13:00 都市化・情報化のなかの共同体
(司会:端 信行)
都市化のなかでの妄想共同体 野田 正彰
13:30 電子共同体 武藤 佳恭
14:00 討論
15:15 総括討論 (司会:中牧 弘允)
コメント1 石毛 直道
コメント2 端 信行

◎民族学部門第20回国際シンポジウム「東・東南アジアにおける機織り文化の基層と展開」

日時 平成8年11月20日(水)
～11月27日(水)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、東アジアと東南アジアの諸民族のもとで育まれてきた機織り文化を、手織機の形式と分布以外にも紡織技術、織物の繊維素材と染料など様々な観点から検討し、この地域の機織り文化の基層と歴史的な展開をあきらかにすることを目的に、活発な討論が行われました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

組織委員会

委員長

佐々木高明 国立民族学博物館長

委員

杉村 棟 国立民族学博物館副館長

- 石毛 直道 国立民族学博物館第一研究部長
端 信行 国立民族学博物館第二研究部長
和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長
小山 修三 国立民族学博物館第四研究部長
杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部長
小村久米夫 国立民族学博物館管理部長
湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

実行委員会

委員長

- 吉本 忍 国立民族学博物館第五研究部
大塚 和義 国立民族学博物館第一研究部
福岡 正太 国立民族学博物館第二研究部
森 明子 国立民族学博物館第三研究部
園田 直子 国立民族学博物館第五研究部
伊藤 憲彦 国立民族学博物館研究協力課長
宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常務理事

参加者

Dieter Kuhn ヴェルツブルグ大学教授
(ロシア)

Robyn J. Maxwell

オーストラリア国立大学講師
(オーストラリア)

Marie-Louise Nabholz-Kartaschoff

パーゼル民族学博物館学芸員
(スイス)

趙 豊 中国絲綢博物館副館長(中国)

橋本 敬造 関西大学教授

大塚 和義 国立民族学博物館教授

- | | | | |
|------------------------------------|----------------------------|----------------------------|-------|
| 崎山 理 | 国立民族学博物館教授 | 服装 | |
| 菅谷 文則 | 滋賀県立大学教授 | (座長：菅谷 文則) | |
| 高田 俊男 | 高田装束研究所所長 | 10:00 日本の染色と服装 | 高田 俊男 |
| | 東京芸術大学講師 | 10:45 討論 | |
| 内海 涼子 | 成安造形短期大学助教授 | (座長：高田 俊男) | |
| 吉田 集而 | 国立民族学博物館地域研究
企画交流センター教授 | 13:00 アイヌの染織と服装 | 大塚 和義 |
| 吉本 忍 | 国立民族学博物館助教授 | 13:45 討論 | |
| 日程 | | 11月24日 (日) 京都に移動 | |
| 11月20日 (水) 茨木京都ホテル | | 11月25日 (月) | |
| 参加者登録 | | セッション4：インド・東南アジ
アの染織と服装 | |
| 11月21日 (木) | | (座長：趙 豊) | |
| 10:00 館内見学 | | 10:00 東南アジアの染織文化 | |
| 11:30 館長表敬訪問 | | Robyn J. Maxwell | |
| 13:30 開会式 (進行：吉本 忍) | | 10:45 討論 | |
| 挨拶 杉村 棟 | | (座長：Dieter Kuhn) | |
| 基調講演 吉本 忍 | | 13:00 東南アジアの服装文化 | 内海 涼子 |
| 14:00 セッション1：基調報告 | | 13:45 討論 | |
| (座長：吉田 集而) | | (座長：崎山 理) | |
| 腰機文化圏と高機文化圏 | | 14:45 インド染織の東南アジアへの影響 | |
| 吉本 忍 | | M. L. Nabholz-Kartaschoff | |
| 14:45 討論 | | 15:30 討論 | |
| 15:45 明・清代の手織機と機織り技術 | | 11月26日 (火) | |
| Dieter Kuhn | | セッション5：機織り文化の周辺 | |
| 16:30 討論 | | (座長：内海 涼子) | |
| 11月22日 (金) | | 10:00 東・東南アジアの染織語彙につい
て | 崎山 理 |
| セッション2：東アジアの手織機
と機織り技術 | | 10:45 討論 | |
| (座長：M. L. Nabholz-
Kartaschoff) | | (座長：橋本 敬造) | |
| 10:15 中国の染織と服装 | 趙 豊 | 11:45 東・東南アジアの生活技術 | 吉田 集而 |
| 11:00 討論 | | 12:30 討論 | |
| (座長：R. J. Maxwell) | | セッション6：総括討論 | |
| 13:00 古代中国と日本の手織機 | | (座長：吉本 忍) | |
| 橋本 敬造 | | 14:15 総括討論 | |
| 13:45 討論 | | 11月27日 (水) 茨木京都ホテル | |
| (座長：大塚 和夫) | | ワークショップ | |
| 14:45 中国と日本から出土した紡織資料 | | 解散 | |
| 菅谷 文則 | | | |
| 15:30 討論 | | | |
| 11月23日 (土) | | | |
| セッション3：東アジアの染織と | | | |

◎文明学部門第15回国際シンポジウム「近代
世界における日本文明—酒の比較文明学
—」

彙報

日時 平成8年12月2日(月)
～12月9日(月)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムでは、近代日本文明における「酒」について、酒造業と酒税法、飲酒方の変化と特徴をうかがいあがらせ、日本文明にとっての酒の意味、さらに文明の中での酒の未来について、活発な討論が行われました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長
組織委員会
委員長

佐々木高明 国立民族学博物館長

委員

杉村 棟 国立民族学博物館副館長
石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部長
端 信行 国立民族学博物館第二研究
部長
和田 正平 国立民族学博物館第三研究
部長
小山 修三 国立民族学博物館第四研究
部長
杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部長
小村久米夫 国立民族学博物館管理部長
湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務

理事

専門委員

Harumi Befu 京都文教大学教授
Josef Kreiner ボン大学日本文化研究所
長

実行委員会

委員長

吉田 集而 国立民族学博物館地域研究
企画交流センター

委員

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究
部
村上 勇介 国立民族学博物館地域研究

企画交流センター

帯谷 知可 国立民族学博物館地域研究
企画交流センター

伊藤 憲彦 国立民族学博物館研究協力
課長

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常
務理事

参加者

Harumi Befu 京都文教大学人間学部文
化人類学科教授

Eyal Ben-Ari ヘブライ大学社会学人類
学部助教授(イスラエル)

Josef Kreiner ボン大学日本文化研究所
長(ドイツ)

Paul G. Schalow

ラトガース大学人文学部東
アジア言語文化学助教授
(アメリカ)

浅井 昭吾 メルシャン株式会社顧問

井野瀬久美恵 甲南大学助教授

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

鎌足 親善 東洋大学教授

神崎 宣武 神崎研究室室長

西澤 治彦 武蔵大学助教授

花井 四郎 中国浙江工業大学客員教授

吉田 元 種智院大学教授

吉田 集而 国立民族学博物館地域研究
企画交流センター教授

日程

12月2日(月) ホテルマール南千里

17:00 参加者登録

12月3日(火)

9:30 館内見学

11:30 館長表敬訪問

13:00 開会式(司会:吉田 集而)

13:40 セッション1:基調講演

文明論から見た酒 梅棹 忠夫

代読 久保 正敏

セッション2:装置としての酒造
産業

(座長:吉田 集而)

15:00 近世日本の酒造り—酒屋の記録と

酒造書から— 鎌足 親善
 16:00 討論
 12月4日(水)
 セッション2: 装置としての酒造産業(続き)
 (座長: 神崎 宣武)
 9:30 ヨーロッパ酒造技術の日本への移入 浅井 昭吾
 10:30 討論
 13:00 日本酒技術の台湾, 朝鮮, 中国への移転 吉田 元
 14:00 討論
 15:30 日本の製造業から見た中国酒造業の特質 花井 四郎
 16:30 討論
 12月5日(木)
 セッション3: 制度・装置としての酒の飲み方
 (座長: ハルミ・ベフ)
 9:30 Dangerous Pleasures: Gender and Drink in Early Modern Japan
 Paul G. Schalow
 10:30 討論
 13:00 料理屋の酒・居酒屋の酒 神崎 宣武
 14:00 討論
 12月6日(金) 月桂冠株式会社, 種麴屋見学

12月7日(土)
 セッション4: 制度・装置としての酒の飲み方(続き)
 (座長: ヨーゼフ・クライナー)
 9:30 Sake and "Spare Time": Management and Imbibement in Japanese Business Eyal Ben-Ari
 10:30 討論
 13:00 中国人の酒の飲み方 西澤 治彦
 14:00 討論
 15:30 イギリス人の酒の飲み方 井野瀬久美恵
 16:30 討論
 12月8日(日)
 セッション5: 文明と酒
 (座長: 井野瀬久美恵)
 9:30 文明史における酒とナルコティックス 吉田 集而
 10:30 討論
 総合討論(座長: 吉田 集而)
 13:00 討論1
 15:00 討論2
 16:30 閉会式
 12月9日(月) ホテルマール南千里
 9:30 ワークショップ
 10:30 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
石森 秀三	教授(第四研究部)	8.10.4	8.10.13	ラオス
加藤 昌彦	助手(第五研究部)	8.10.7	8.10.18	オランダ
帯谷 知可	助手(地域研)	8.10.7	8.11.7	ウズベキスタン, カザフスタン
長野 泰彦	教授(第一研究部)	8.10.9	8.10.22	オランダ, インド, ネパール, 中華人民共和国
佐々木史郎	助教授(第四研究部)	8.10.10	8.10.13	大韓民国
池谷 和信	助手(第一研究部)	8.10.11	8.12.29	南アフリカ, レソト王国, スワジランド王国, ボツワナ, ナミビア
田邊 繁治	教授(第二研究部)	8.10.12	8.10.22	タイ
平井京之介	助手(第一研究部)	8.10.12	8.10.22	タイ
熊倉 功夫	教授(第一研究部)	8.10.20	8.11.5	中華人民共和国, 香港, ネパール, インド

彙 報

森田 恒之	教授 (第五研究部)	8.10.20	8.10.23	中華人民共和国
石毛 直道	教授 (第一研究部)	8.10.26	8.11. 6	ペルー
臼杵 陽	助教授 (地域研)	8.10.27	8.11. 2	フランス
大津留智恵子	助教授 (地域研)	8.10.30	8.11. 9	アメリカ合衆国
岸上 伸啓	助教授 (第一研究部)	8.10.31	8.12.17	ロシア
松原 正毅	教授 (地域研)	8.11. 9	8.11.30	トルコ, フランス, トルクメニスタン
江口 一久	教授 (第三研究部)	8.11. 9	8.11.21	イギリス, オランダ
杉村 棟	教授 (第二研究部)	8.11.14	8.11.18	アメリカ合衆国
阿部 健一	助手 (地域研)	8.11.15	8.12.30	フランス, ケニヤ, カメルーン
平井京之介	助手 (第一研究部)	8.11.15	9. 3.20	イギリス
秋道 智彌	教授 (第一研究部)	8.11.18	8.12.14	タイ
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	8.11.21	8.12.16	中国
立川 武藏	教授 (第二研究部)	8.11.24	8.12.19	ネパール, インド
南 真木人	助手 (第三研究部)	8.11.24	8.12.15	ネパール
杉島 敬志	助教授 (第二研究部)	8.11.27	9. 2.26	インドネシア
江口 一久	教授 (第三研究部)	8.11.27	9. 3.26	カメルーン, フランス
村上 勇介	助手 (地域研)	8.12. 1	9. 2.28	ペルー
田村 克己	助教授 (第五研究部)	8.12. 1	8.12.21	ミャンマー
寺田 吉孝	助手 (第二研究部)	8.12.10	8.12.18	タイ
和田 正平	教授 (第三研究部)	8.12.14	9. 1.18	タンザニア
石毛 直道	教授 (第一研究部)	8.12.15	9. 1. 9	インド
吉田 集而	教授 (地域研)	8.12.15	9. 1. 9	インド
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	8.12.15	9. 1. 9	インド
西尾 哲夫	助教授 (第二研究部)	8.12.16	8.12.29	イスラエル, イギリス
田邊 繁治	教授 (第二研究部)	8.12.18	9. 1.26	タイ, ラオス
松原 正毅	教授 (地域研)	9.12.26	9. 1. 2	ペルー
山本 紀夫	教授 (第五研究部)	9.12.26	9. 1. 2	ペルー

来館者抄

10月4日	CASAL, Gabriel, S. (フィリピン, フィリピン国立博物館館長)	ル, サンパウロ大学学長付文化事業部長)
10月6日	劉 志 敏 (中華人民共和国, 山東省棗州市文化局副局長), 郭 建 芬 (山東省文物事業管理局副科長), 唐 伝 軍 (山東省外事弁公室対外服務センター), 渡辺 昌宏 (大阪府立弥生文化博物館学芸課長)	10月14日 中国内蒙古呼和浩特市友好訪問団一行)
10月8日	MARCOVITCH, Jacques (ブラジ	10月15日 松山 豊 (文部省大臣官房文教施設部指導課監理室長), 本木 孝節 (文部省大臣官房文教施設部大阪工事事務所長補佐), 荒記竹之助 (和歌山大学事務局長), 銚物 良雄 (京都大学施

- 設部建築課長)
- 10月21日 インド観光省研修プログラムセミナー一行)
- ASMAR, Camille (レバノン, レバノン考古総局長)
- LKHAGBAJAB, Chulutemiin (モンゴル, モンゴル文部大臣), Lkhagvasuren, Damdinsurenii (モンゴル文部省対外関係上級職員), GANKHUYAG, Tserendorj (国家大会議社会政策常任委員会委員), ALTANKHUYAG, Sambuu (モンゴル文部省教育局次長), OYUNDELGER, NOROV (モンゴル国立医科大学肺疾患・血液学室教授), OYUNGEREL, Shoboodoi (ウランバートル市10年制第66学校地理教員)
- 10月22日 BADRAN, Hussein (エジプト, エジプト観光省第一次官)
- 10月24日 李 希 凡 (中華人民共和国, 中国芸術研究院常務副院長), 徐 潮 (中華服飾文化研究会常務副会長)
- 10月27日 平松 守彦 (大分県知事)
- 10月29日 白井晋太郎 ((財)産業雇用安定センター理事長), 和田東洋司 ((財)産業雇用安定センター理事), 樋口 静夫 ((財)産業雇用安定センター準備室長), 中山 政穂 ((財)産業雇用安定センター課長補佐), 松崎 朗 (大阪労働基準局長), 前出 光博 (大阪労働基準局庶務係長), 荒井 和夫 (大阪府労働部職業管理課長), 片岡 伝七 (大阪府労働部職業管理課庶務係長), 松崎 邦夫 (雇用促進事業団大阪雇用促進センター所長)
- 岡野 錦彌 (大阪大学名誉教授)
- 10月31日 MACERADALL'ORSO, Pablo (ペルー, 国立サンマルコス大学社会科学部学部長)
- 11月1日 韓国視察・研修団一行
- 11月5日 DURRANS, Brian (イギリス, 大英博物館人類博物館副館長)
- 11月7日 POTTS, Timothy (オーストラリア, 国立ヴィクトリア美術館長)
- 11月8日 朝比奈秀夫 (日本万国博覧会記念協会理事長), 角島 一明 (近畿財務局神戸財務事務所長), 大西 巧 (近畿財務局神戸財務事務所理財課長)
- 11月12日 劉 慶 柱 (中華人民共和国, 中国社会科学院考古研究所副所長), クラウス・シュテファン・フライベルゲル (ドイツ・ドイツ考古学研究所教授), 大庭 脩 (大阪府立近つ飛鳥博物館長)
- 11月18日 SIMPSON, Peter (ニュージーランド, オークランド大学助教授), ステューブ・ペイトン (在大阪ニュージーランド総領事館総領事)
- HWANG, Yeong Hwan (大韓民国, 釜山大学校), RIM, Joeng

- Hee (釜山大学校), CHANG, Jung Soon (釜山大学校), Kim, Jung Nam (釜山大学校)
- 11月21日 茂在 寅男 (東京商船大学名誉教授)
- 11月24日 韓国視察・研修団一行
- 11月26日 USPENSKY, Vladimir L. (ロシア連邦, ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支部研究員), USPENSKAYA, Elena N.
- 11月29日 巴莫阿依 (中華人民共和国, 中央民族大学民族研究所助教授), 巴莫曲布嫫 (中国社会科学院少数民族文学研究所), 摩瑟磁火 (四川省凉山彝族自治州美姑県語言文字工作委员会), 馬子 (涼山州民族研究所), 怕查達夫 (四川省凉山彝族自治州美姑県国土局), 佐野 賢治 (筑波大学歴史・人類学系助教授), 飯島 吉晴 (天理大学文学部助教授)
- 宇野 博臣 (山口県立山口博物館長)
- 12月2日 BAT-ERDENE Regsurengiin (モンゴル, モンゴル国文化省副大臣)
- 12月5日 張 雪 梅 (中華人民共和国, 淄博市博物館副館長), 劉 延常 (山東省文物考古研究所), 張 輝 (山東省文物総店営業部), 宮野 淳一 (大阪府立弥生文化博物館学芸員)
- 12月13日 VASILYEVICH, Gubersky Leonid (ウクライナ, キエフ大学国際関係研究所長)
- 12月17日 唐 建 新 (中華人民共和国, 中国国家民族事務委員会人事司副司長), 達 依 (チベット自治区山南地区都市計画局), 帕 衣 肯 (新疆ウイグル自治区昌吉州奇台县大泉塔塔尔郷郷長), 巴合提古麗奧巴克 (新疆ウイグル自治区阿勒泰地区哈河県一中教員), 葦 鳳 霞 (貴州省三都自治県延排郷副郷長), 塗 玉 玲 (内モンゴル自治区民族事務委員会), 周 秀 英 (雲南省景洪市貴諾郷政府), 娜 朵 (雲南省孟連県文化館)

国立民族学博物館研究報告 21巻 総目次

21巻1号

平井京之介：北タイの工場社会における権力と相互行為 ——日系文具メーカーの事例から——	1
三島 禎子：ソニンケ社会における家族の連帯と規模 ——出稼ぎをめぐる——	77
近藤 雅樹：足踏み式回転脱穀機の発明 ——特許資料からみた成立前史——	119
林 俊雄：モンゴリアの石人	177

21巻2号

赤木 攻：北部タイ，チェンコーンにおけるプラー・ブック (<i>Pangasianodon gigas</i>) 秋道 智彌 の民族魚類学的考察	293
秋篠宮文仁 高井 康弘	
大林 太良：雲南のクツォン人と北部インドシナの採集狩猟民 ——古い伝統か文化的退化か——	345
小杉 康：物質文化からの民族文化誌的再構成の試み ——クリールアイヌを例として——	391

21巻3号

上杉 富之：ボルネオ・ムルット社会の葬礼に見られる贈与交換と社会関係	513
韓 景旭：中国朝鮮族にみる村の生活 ——吉林省星火村の調査報告——	569
楊 海英：オールドス・モンゴルの祖先祭祀 ——末子トロイ・エジン祭祀と八白宮の関連を中心に——	635

21巻4号

岸上 伸啓：カナダ・イヌイットの社会・経済変化 ——ケベック州のイヌクジュアク村の事例を中心に——	715
朴 銓烈：韓国社会における旅芸人の受け入れられ方	777
小田 亮：ポストモダン人類学の代価 ——ブリコロールの戦術と生活の場の人類学——	807
木下 太志：記録されなかった出生 ——人口人類学におけるシミュレーション研究——	877
Yoshitaka Terada: Effects of Nostalgia: The Discourse of Decline in <i>Periya Mēlam</i> Music of South India	921

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 *Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse*. In Eric H. Lennenberg (ed.), *New Directions in the Study of Language*, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 *Social Structure in Southeast Asia*. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 *The Rites of Passage*. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 21卷4号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

泉 幽 香

上 杉 富 之

江 口 一 久

佐々木 史 郎

清 水 昭 俊

新 免 光 比 呂

杉 本 良 男

長 野 泰 彦

林 勲 男

吉 田 集 而

平成9年3月28日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 21卷4号

編集・発行

国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1

TEL 06(876)2151(代表)

印 刷

中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.21 no.4
1996

- KISHIGAMI, Nobuhiro** **Socio-Economic Change in Canadian Inuit Society:
The Case of Inukjuak Village, Nunavik (Northern
Quebec), Canada**
- PARK, Jeon Yull** **The Social Acceptability of Strolling Players in
Korea**
- ODA, Makoto** **The Price of Postmodern Anthropology**
- KINOSHITA, Futoshi** **Uncounted Births: Estimating the Fertility of
Tokugawa Peasants from Shumon Aratame-cho**
- TERADA, Yoshitaka** **Effects of Nostalgia: The Discourse of Decline in
Periya Mējam Music of South India**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X